

# 中期事業計画

平成24年度～平成26年度

広島県信用保証協会

# 1 基本方針

## (1) 業務環境

海外の景気は、全体としては緩やかに回復していますが、欧州の一部の国々における金融不安やアジア地域における景気の拡大テンポの鈍化などあって、今後景気が下振れする懸念もあり、先行きは不透明な状況にあります。

国内の景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にある中で、緩やかに持ち直していますが、欧州における金融不安等の影響を受け、海外の景気が下振れし、国内の景気が下押しされるリスクが存在していることや、デフレの影響、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることもあり、先行きは楽観できない状況にあります。

県内の景気は、東日本大震災の影響から持ち直してきているものの、円高の影響や欧州など海外経済の減速などから、主要企業において生産の操業度を引き下げる動きがみられるなど、県内企業の経営環境は非常に厳しい状況にあります。特に、円高は、自動車産業をはじめ輸出型産業への依存度が高い本県経済にとって、重大な影響が憂慮されます。

こうした中で、県内中小企業を取り巻く環境は今後も厳しい状況がしばらく続くものと思われ、その動向を注視していく必要があります。

## (2) 業務運営方針

当協会は、平成21年に「第2次中期事業計画（平成21年度～平成23年度）」を策定し、中小企業の振興と地域経済の活力ある発展に資するため、金融機関等と連携し、全国緊急保証を中心とした保証の推進に当たるとともに、借換保証や条件変更による資金繰りの緩和など、保証先に対する期中支援にも取り組み、一定の成果を得たところです。

# 1 基本方針

しかしながら、急激な円高の進行や東日本大震災の発生など、度重なる経済環境の変化により中小企業の財務状況は悪化していることに加え、平成 24 年度末には中小企業金融円滑化法の終了も予定されています。

こうした中、信用保証協会に対しても新たな役割が期待されていることにかんがみ、今後 3 年間においては、引き続き、保証の推進に当たるとともに、今まで以上に、期中支援や再生支援に力を注いでいきます。

また、保険収支の改善に資するため、期中管理の徹底や求償権回収の最大化に取り組んでいきます。

さらに、信用保証協会の社会的責任を果たしていくため、ガバナンスの強化や経営基盤の強化に取り組んでいきます。

## ア 保証の推進

金融機関等関係機関と連携し、各種保証制度・融資制度を活用して、中小企業の実態や特性を十分に踏まえた支援を行います。

(ア) 中小企業に対しその実情に応じた円滑な資金の供給を行うため、国の政策保証をはじめ、各種の保証・融資制度を活用します。

(イ) 簡易・迅速な資金の供給を行うため、引き続き、金融機関との提携保証制度を推進します。

(ウ) 保証審査に際しては、中小企業の経営実態や特性を十分に踏まえた判断を行います。

(エ) 広報活動等を通じて信用保証制度に関する情報を発信し、制度の利用拡大や中小企業の利便性の向上を図ります。

## イ 期中支援・再生支援の強化

保証先の実態把握に努め、さまざまな経営上の課題に対し適宜適切な期中支援・再生支援を行います。

# 1 基本方針

- (ア) 大口保証先には、保証後においても定期的に決算書の提供を求めるなど、早期に実態を把握します。
- (イ) 業況の悪化が懸念される保証先や資金繰りに支障が生じているもののその改善が見込まれる保証先には、金融機関を通じ定期的に経営状況の確認を行い、実情に応じた期中支援を行います。
- (ウ) 事業再生や業種転換を目指す保証先には、金融機関や中小企業再生支援協議会と連携し、その取組に向けた支援を行います。
- (エ) 資金繰りの改善が必要な保証先には、借換保証や柔軟な返済条件の変更対応により、実情に応じた返済方法の見直しを行います。
- (オ) 経営の改善が見込まれない保証先には、金融機関と慎重かつ十分な協議の上、保証先の事業継続に対する意欲なども勘案して、状況に応じた方策を早期に講じます。
- (カ) 期中・再生支援業務の強化に向けた組織体制を構築します。

## ウ 回収の最大化・効率化

求償権に応じた対応を行い、回収の最大化・効率化に取り組みます。

- (ア) 回収目標や回収方針を明確にし、その進捗管理を徹底するとともに、担保権の行使、法的措置及び保証協会債権回収株式会社の積極的活用など、回収資源に応じた回収手法を講じます。
- (イ) 求償権の放棄、不等価譲渡あるいは求償権消滅保証など、必要に応じ、事業を継続している求償権先の再生を支援します。
- (ウ) 適正な管理事務停止や求償権整理を行い、回収資源のない求償権残高の減少に努めます。

# 1 基本方針

## エ ガバナンスの強化

信用保証協会の社会的責任を果たすため、コンプライアンス態勢のさらなる充実や経営の透明性を向上するとともに、リスク管理の徹底を図ります。

- (ア)引き続き、コンプライアンス研修の実施や定期的なコンプライアンス意識の検証により、コンプライアンス態勢を充実します。
- (イ)協会の業務内容や事業活動について積極的に情報提供を行い、経営の透明性の向上を図ります。
- (ウ)リスク関連マニュアルの見直しやリスク管理体制の整備により、適切なリスク管理を行います。

## オ 経営基盤の強化

信用保証協会に対する期待に応え続けていくため、簡素で効率的な組織を目指し、効果的な資金運用を行うとともに、人材の育成、職員の能力や適正に応じた任用の徹底を行うことで、経営基盤の強化を図ります。

- (ア)協会全体の業務執行体制について検討を行い、簡素で効率的な組織を編制します。
- (イ)安全性・流動性を考慮しながら、効果的な資金運用を行います。
- (ウ)人事考課制度の適正な運用、各種研修への計画的参加及び関係機関との人的交流を行い、多様化する業務に的確に対応できる人材を育成します。
- (エ)職員の能力や適性に応じた任用を徹底するとともに、業務上の知識やノウハウを伝承するため、再雇用者を積極的に活用します。
- (オ)業務改善に向けた提案を募るなど、職員の創造性の発揮や参画意識の醸成に取り組みます。

## 2 事業計画

広島県信用保証協会

(単位：百万円、%)

年度 項目	24年度			25年度		26年度	
	金額	対前年度 計画比	対前年度 実績見込比	金額	対前年度 計画比	金額	対前年度 計画比
保証承諾	315,000	101.6	101.4	320,000	101.6	325,000	101.6
保証債務残高	685,000	98.6	96.7	678,000	99.0	678,000	100.0
代位弁済	16,000	88.9	114.0	18,000	112.5	20,000	111.1
実際回収	3,500	97.2	99.4	3,250	92.9	3,000	92.3